日刊 動労千葉

87. 11. 2

No. 2693

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二22）七二〇七

国鉄「分割・民営化」反対！三里塚二期工事阻止！

沖縄闘争報告

沖縄県民と連帯し、国鉄・三里塚に勝利しよう

沖縄派遣団代表・永田雅章千葉鉄支部長

われわれは、十月二二日、三人の青年部員と天皇の名代＝皇太子の沖縄訪問に反対し、沖縄県民と連帯して闘うために、沖縄に向かいました。途中、羽田空港で県道の権力の不当な検問、那覇空港から宿舎まで県のいたる所にいた私服刑事による尾行等々をはねのけて沖縄現地入りしました。

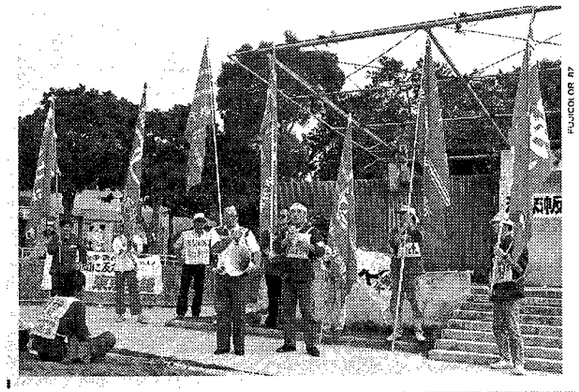
連日三十度を越す暑さの中、われわれは、貧欲に沖縄県民のたたかいと歴史を吸収するために主権者県民会議、東京会議の人達との調査、見学、交流会、集会、デモ等々を連日共に闘かってきました。

読谷村における「ソフトボール会場での『日の丸』『君が代』をやらなければ会場を他に移す」という攻撃に見られるとおり、この天皇訪沖攻撃は、沖縄県民の闘いを押しつぶし、日本の労働者・人民を戦争の道にひきずりこもうとする攻撃です。

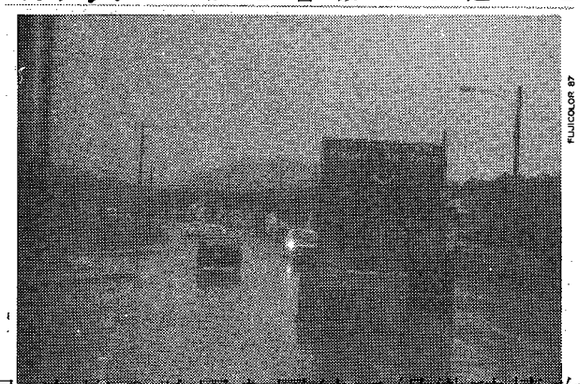
そして、そのような攻撃の先兵となり、たたかいの爆発を何とか抑えようとたち振る舞い、「天皇来沖反対」に反対しているのが革マルです。国鉄分割・民営化の裏切りと同様なことが沖縄でも行われています。読谷村における集団「自決」（本当は皇軍が強制した虐殺）について「父や母が我が子の足を持ち、ふりまわし、何度も何度も岩に頭をぶつけて死なせた」とあたかも集団「自決」が住民の意志で行われたようなことを革マルが言ったという話を交流会で聞き、怒りに耐えられません。われわれは、革マルの一掃をかちとらなければなりません。

また、労戦「統一」の問題が交流会や集会で多く出されました。全民労連結成は、安保・自衛隊・核を認め、反戦・反基地闘争を否定し、日の丸を掲げる労働運動を行うものです。沖縄の労働者は、このことを絶対に認められないし、必ずや三里塚・国鉄の闘いに沖縄闘争が合流し、新たな闘いが開始されることを肌で感じました。

最後に、沖縄派遣団に対しての沖縄の皆さんの心あたたまる歓迎、ならびに動労千葉の組合員の皆さんのカンパ等のご支援、本当にありがとうございました。



▲動労総連合・国労共闘を代表し決意表明
世界最大の侵略基地カデナ。



関川前委員長の逝去を悼む

関川宰前委員長追悼文
木更津支部

私が関川さんを想起する時、まっ先に思い出されるのは、その真摯かつ真面目な姿勢であり、組合員に対し居丈高になるでもなく相手の立場を十分に認めたうえで、納得するまでかみくだき話す―相手の全てを引き出し逆にグイグイ魅きつけていくパワーです。

関川さんは、千葉における国鉄労働運動の新たなるパイオニアとして、一九七三年、第二四回地本大会で執行委員長に就任以来、「労農連帯」を旗印に「反合・運転保安」を前面に掲げ、いくたの闘争を指導し、動労「本部」との分離・独立をかけた「全国オルグ団」と全面対決―組織争闘戦に勝利し、動労千葉初代委員長に就任―「ジェット燃料貨車輸送阻止闘争」において反対同盟とのきづなをさらに強固なものとし、委員長退任後も顧問として私たちの支えとなり活躍を続けてこられました。

関川さんは、陶芸家が土をこね、焼きの具合を見―完成への道程を積み重ねるように、動労千葉の胎動―誕生―成長を自らの手で創造し、見守り、形成しました。

私たちに関川前委員長が求めるものは、①動労千葉精神の継承であり、②新たなる創造と緊張でありましょう。

その意味において私たちは、「分割・民営化」粉砕の旗を堅持し、動労千葉の全盛期、動労総連合への大いなる結集を目指し、日本労働運動総体を限りなく左へと転換させていく力を持たなければなりません。

関川さんは、私たちが時代の流れを変えていくことを期待されているにちがいありません。「鉄鎖を断つ」―関川イズムを目前で見てきた私もその先頭にたつことを一つの誓いとして、霊前に捧げるものです。

合掌